

題名 中部横断自動車道の事業促進に向けた情報発信の事例

甲府河川国道事務所 調査第二課 技官 <sup>かみじまさし</sup> 上島雅志

1、はじめに

中部横断自動車道は静岡県静岡市を起点とし、山梨県甲斐市を經由し、長野県佐久市に至る延長約 136km の高速自動車国道である(図-1)。この道路が整備されることにより、広域的な地域連携・交流を促進するとともに、沿線の方々が安心して暮らせるネットワークの構築、物流効率化の支援や観光振興等に寄与するものと期待されている。

甲府河川国道事務所では、平成 18 年 2 月の第 2 回国土開発幹線自動車国道建設会議において、中部横断自動車道の富沢 IC~六郷 IC 間の約 28km の新直轄方式による整備の決定を受け、平成 18 年 4 月より中部横断自動車道推進室を設置し、現在、調査設計及び用地買収を推進しているところである。



図-1 中部横断自動車道概略

2、現況及び地元の状況

中部横断自動車道の増穂以南では、並行する幹線道路である国道 52 号の代替路が十分でないこと、雨量規制区間が多く、通行止めが頻発していること、救急医療施設へのアクセス性の悪さなどの問題がある(図-2)。

地元住民は交通利便性の向上、緊急時の代替路等の整備に期待し、1 日も早い交通ネットワークの整備を強く望んでいる。(なお、山梨県知事は今後 10 年以内に開通させることを公約としている。)

山梨県峡南地域を通過する国道52号には、雨量規制区間が多く(6箇所)、頻発する通行止めにより、約7千世帯に影響を与えている。  
中部横断自動車道の整備により、約3千世帯の通行が可能となる。

- 国道52号の通行止回数(H13~H17までの累積)  

全国平均	約 5
国道52号	約 25

**全国平均の約5倍**
- 峡南地域の山梨県立中央病院 1時間カバー人口(率)  

整備前	約0人(0%)
整備後	約25,700人(89%)

※峡南地域:身延町、南部町

第三次救急医療施設は山梨県内では甲府市内のみ。  
現在、峡南地域では1時間以内の到達が難しい状況。  
中部横断自動車道の整備により、峡南地域の約9割の人が1時間以内での搬送が可能になる。

図-2 中部横断自動車道(増穂以南)の沿線状況

### 3、事業進捗に向けた取り組み

地元情勢を踏まえて、早期供用に向け事業を推進していくためには、地域の方々のより一層の理解と協力が重要であり、如何に理解促進に努めていくかが課題であった。

平成 18 年度は、理解促進に向け「中部横断自動車道(増穂以南)推進会議」(平成 18 年 5 月)(以下「推進会議」という)を新たに設置し、事業の推進を図ることとした。また、事業進捗などが見えないことは地域の不安・不信に繋がるため、事業進捗等が見える形で情報発信を行った。

#### 3. 1、事業マネジメントの導入

地元の理解と協力を得ていくため、沿線首長及び事業者からなる事業マネジメント型の推進会議を設立し、地元意見を把握・反映できる枠組みを構築した(図-3)。

推進会議は事業の各区切りである調査開始、中心杭設置、設計協議開始、幅杭設置・用地測量開始のタイミングにおいて開催し、情報の共有を図るとともに課題の調整を実施し、事業マネジメントに取り組んだ。

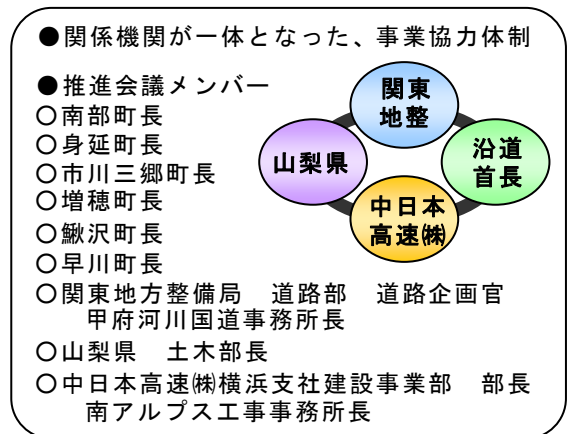


図-3 推進会議の体制

#### 3. 2、見える形の情報発信

事業進捗等が見える形の情報発信として、当事務所では初めてとなる『中心杭打ち式』及び『設計協議調印式』を開催した。また、行政職員と地域の方々が車座になって図面を囲む、『車座方式の設計説明会』を開催した。

##### 3. 2. 1、中心杭打ち式

現地において作業が始まるということを周知する目的と、地元も協働で事業を進めているという意識を持って頂くため、地元の方々の参加を得て中心杭打ち式を開催した(写真-1)。



写真-1 杭打ち式

杭打ち式では、10 年後に成人を迎える地元小学生に将来の夢を描いてもらった杭の展示(杭は中心線測量で使用)、沿線市町村による物産展、地元の伝統芸能の披露、測量作業体験などを開催し、より多くの方々に幅広く参加してもらえよう工夫をした(写真-2)。



写真-2 夢を描いた杭

### 3. 2. 2、設計協議調印式

地元の協力を頂きながら事業が1つ進んだことを見える形で周知するため、設計協議の合意に至った地域において設計協議調印式を開催した(写真-3)。



写真-3 設計協議調印式

### 3. 2. 3、車座方式の設計説明会

地域の方々とのコミュニケーションを図り、かつ事業進捗が見えるよう、行政職員と地域の方々が車座になって図面を囲み、地元の方の事業に対する不安や疑問にきめ細やかに応えられるような工夫をした(写真-4)。



写真-4 車座方式の設計説明

### 3. 3、メディアによる情報発信

推進会議や各種取り組みについて、積極的に公表することにより、メディアにも広く取り上げられ(表-1)、多くの方々に事業進捗等が見える形での情報発信が出来たと考えている。

表-1 メディア露出実績

開催の公表	開催日	取り上げられたメディア	
		新聞	TV
第1回推進会議	H18.5.9	8紙9回	4番組
第2回推進会議	H18.6.29	3紙3回	2番組
中心杭打ち式	H18.7.9	4紙4回	3番組
路線標識(中心杭)設置	H18.9.23	3紙3回	2番組
第3回推進会議	H18.10.17	5紙5回	3番組
用地測量・幅杭設置	H19.11.22	2紙3回	2番組
第4回推進会議	H19.2.19	3紙4回	2番組
設計協議調印式	H19.3.4	5紙5回	不明
用地一部取得	H19.3.19	3紙3回	3番組

※. 取り上げられたメディア数については当事務所で把握した件数のみ

### 4、取り組みの成果

事業マネジメント型の取り組みの実施により、地元・関係機関から十分な理解と協力が得られたこと等によって、道路基本設計の段階から円滑に事業が進められ、約1年という短期間で一部用地を取得することができた(図-4)。



図-4 用地取得状況

#### 4. 1、情報発信の効果

今後の広報計画立案のための基礎調査として、平成18年末(平成19年3月9日~14日)にインターネット・モニター・アンケート調査を実施した。延べ2,106人からのアンケート結果を得ている(表-2)。

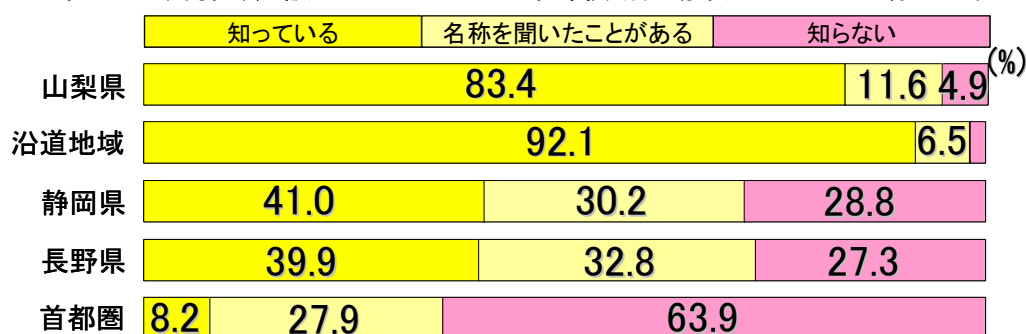
表-2 アンケート結果

地域	回収数	割合(%)
山梨県	1057	50.2
沿道地域	430	20.4
静岡県	420	19.9
長野県	421	20.0
首都圏	208	9.9
合計	2106	100.0

アンケートの結果(表-3)、中部横断自動車道の事業の認知について、山梨県の方々からは8割、沿道地域の方々からは9割を超える高い結果が得られた。平成18年度の取り組みの効果があったものと思われる。

表-3 アンケート結果(認知)

Q あなたは、現在、建設が進められている中部横断自動車道についてご存知ですか。



#### 4. 2、情報発信の課題

アンケートの結果(表-3)、山梨県以外の方々の認知が山梨県の方々と比べて低くなっていることがわかる。これまで述べてきたとおり、平成18年度の情報発信の取り組みは地元である山梨県を意識したものであり、その結果であると考えられる。

中部横断自動車道は地域に対する効果だけでなく、国土の広域的な交通ネットワークとして重要な路線である。今後は引き続き地元の理解と協力を得ることに努めつつ、長野県・静岡県を始め、より広い地域の方々の理解を深めるため、広域的な情報発信の充実を図ることが重要である。

#### 5、おわりに

路線の公益性は大きく、事業の必要性を広く国民に発信していくことが必要であり、地域に対するこれまでの情報発信の継続に努めつつ、広域的な範囲の方々の情報発信に対するニーズを出来る限り把握し、今後の情報発信の内容について十分に検討して取り組んでいきたい。改善方策(案)として地域内外の多くの方々から意見を頂けるwebの活用等を検討し、地域毎の情報ニーズに応えることを考えていきたい。

本事例は、地域の大きな期待の上に、積極的な協力が得られた事例であり、地元の理解と協力を得るための参考として活用して頂ければ幸いである。